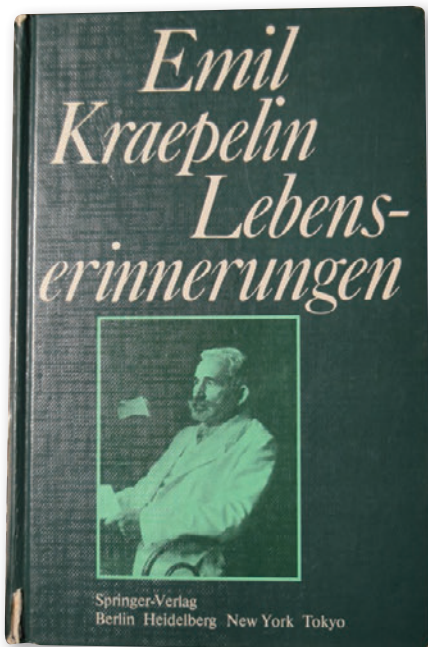


# Trends in Psychiatry

Theme

## 古典「エミール・クレペリン」

解説 東京工業大学名誉教授／郡山精神医療研究所顧問 影山 任佐先生



### 書籍紹介

Emil Kraepelin. *Lebenserinnerungen*. Berlin, Heidelberg, New York, Tokyo; Springer-Verlag; 1983.

現代精神医学の祖といわれるクレペリン(1856~1926)自身による回想録で、1976年にミュンヘンで開催されたクレペリン没後50周年記念式典の際、ミュンヘン大学精神医学教室のヒプスやマックス・プランク精神医学研究所のペーテルスらによる発案により、1983年に出版された。クレペリンが没する7年前、1919年までの記述で構成され、クレペリンが生きた時代の精神医学の発展過程を知ることができる。



### 書籍紹介

Emil Kraepelin. *Psychiatrie. Ein Lehrbuch für Studierende und Ärzte*. Leipzig; 1899.

クレペリンの業績の最たるものである精神疾患の分類体系の出発点となったのが、27歳のときにライプツィヒで発行された「精神医学提要」(1883年)であり、のちの「精神医学」教科書の初版である。その後第9版の改訂を重ねるまでのライフワークとなるが、第9版はクレペリンの死により各論を弟子のランゲが執筆したため、彼自身の著による完全な最終版は第8版(1913年)である。精神疾患分類は、先人の症例観察などの膨大な研究に自験例を照らし合わせ、自身の考えにより疾患概念に分類するという手法で、1899年に発行された第6版では、精神疾患が早発性痴呆と躁うつ病に二大別された。現代に生きる精神科医にとって、臨床、研究面において多くの示唆を与える書である。